



スマイル天神 No.36



令和3年12月24日
天神小学校
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

クリスマスとお年玉の思い出…



明日から冬休み。クリスマスにお正月…。私の子どもの頃の思い出を紹介します。我が家は、本当に一般的な家庭であったように思います。今でこそ、外食というのが当たり前のようになっていますが、当時、我が家にとって外食は特別なことでしたから、誕生日とか、クリスマスの日とか、年に数回の特別な日にしか行けないイベントでした。よそ行きのちょっとおしゃれな服装をしてレストランに行くのが、子どもながらにとっても楽しみでした。お子様ランチからハンバーグステーキにステップアップしたのも思い出です。いつもは自宅で箸（はし）を使って食べる食事なのに、スプーンでスープをいただき、フォークとナイフでハンバーグをいただく。日頃から食事のマナーは厳しくしつけられていましたが、レストランでのマナーも教えられました。マナーが悪かったら次は連れて来てもらえないかも…という思いもあってか、素直にマナーよく食べることを学びました。

さて、話は変わりますが、小学校3年生頃から、お小遣いが毎月定額制に変わりました。月500円だったと思います。父や母が貯金することの大切さをよく話して、500円のうち100円を貯金していました。貯金箱ではなく自分名義の預金通帳を作ってもらい、その通帳と100円を持って近くの郵便局に貯金しに行っていました。今思えば、「余ったお金を貯金する」のではなく、「貯金した残りをお小遣いにする」という習慣を身につけさせられたように思います。

お年玉については両親が預かって、「お前の預金通帳に入れておく」という父母の言葉を聞いて信じていました。しかし、高校生になると、だんだん疑わしいと思うようになって「本当にある？」と聞くことがありました。高校を卒業し、大学進学するため、自宅を離れるという出立の日。父と母が見送ってくれて、その時に、お年玉を貯金してくれていた通帳を父から渡され、「もう学生になるのだから、このお金は自分が好きなように使いなさい。元々はお前の物なのだから返すぞ。」と言われました。通帳を開いて見て涙が出ました。毎年1月の終わりに10年以上にわたり、お年玉が貯金されていて、しかも1回も引き出されることなく、きれいに記帳されていたのです。両親を疑った自分が恥ずかしくなるとともに、お金に対してきちんとする両親の姿勢を学びました。30万円近くあった、このお金は、学生時代は結局1円も使うことはできませんでした。遊ぶことや楽しいことに使うのは違うと思ったのです。お金の価値や使い方についても、両親が教えてくれました。

子ども達は、このお正月に、大きなまとまったお金をもらうかもしれません。これをどう学びの機会にするのか、とても大切なように私は思います。

本年もあと少しとなりました。皆様よいお年をお迎えください。

1月の主な行事予定

1月11日(火)	後期後半授業開始日（給食あり・下校時刻は通常どおり）
1月14日(金)	校内学力テスト
1月20日(木)	集団下校

天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ～あじさいあいさつを～
～あ～いての目を見て ①ぶんから ②わやかな声で ③いつでも・どこでも・誰にでも